

58 スクリバ博士の外科学系譜の疑義の

訂正

蒲原 宏

ユリウス・スクリバ (Julius Karl Scriba 1848-1905) の外科学研修の系譜は報告書により異なるので正確を期するため調査を行った。

(一) 石橋長英・小川鼎三：一八七四年ハイデルベルグ大学でドクトルとなる。学位論文は「脊椎彎曲の治療法」についてベルリン大学で研究、一八七五年フライブルグ大学のツェルニー (Vinzenz Czerny 1842-1916) の下でカイゼルと共に犬の胃全摘出手術成功、ついでシモン (Gustav Simon 1824-1876) の第二級助手、ランドウエール教授第一級助手、講師となるがその資格論文は「脂肪栓塞論」一八七九年ドイツ外科時報発表、一八八一年東大赴任(お雇い外国人)の(医学一九六九年刊)

(二) フィンシャー: Scriba, J. wurde in Heidelberg Dr.

med. und habilitierte sich 1879 mit der Arbeit: Untersuchungen über die Fettembolie, Leipzig, für Chirurgie. ことライプチヒ大学に於て卒業せり。 (L. Fischer: Biographisches Lexikon d. hervorragenden Ärzte d. letzten fünfzig Jahre, 1935)

(三) キリアン: フライブルグ大学のママス (Hermann Mas 1842-1886) とライプチヒ大学のチイルムン (Karl Thiersch 1827-1895) に就くと記す。(Hans Killian: Meister der Chirurgie u. die Chirurgenschulen in gesamt deutschen Sprachraum, 1980)

(四) クラアス・比樹能樹: スクリバは一八七九年フライブルグ大学でグスタフ・シイモン (一八二四—一八七六) の下で Untersuchungen über die Fettembolie により教授資格を得た。一八八八年日本におけるスクリバの腎摘出術の初成功が記されている。(E. Kraas u. Y. Hiki: 300 Jahre deutsch-japanische Beziehungen in der Medizin, 1992)

(五) ヴィアンデン: ツェルニーの下で一八七四年 Allgemeine Beiträge zur Diagnostik der Unterleibsges-

Chwiltste の論文で医師資格を得てからベルリンでランゲンベックのクリニックに学び、ついでジモンにつきフライブルグ大学に移る。一八七九年 Untersuchungen über die Fettembolie の論文で外科学教授資格授与。一八八一年東大赴任。(Hermann H. Vianden: Die Einführung der deutschen Medizin im Japan der Meiji-Zeit, 1985) の五説がある。

スクリバの外科医としての経歴を原著論文及び履歴によって検証してみると、何れの説も不正確であり、大きな誤りがあった。

スクリバが最初に医学を学んだのはハイデルベルグ大学に入学した一八六九年、翌一八七〇年普仏戦争に軍医補として従軍、終戦後大学に復帰、ジモン(一八六八—七六年在任)に外科学を学び、一八七四年 Allgemeine Beiträge zur Diagnostik der Unterleibsgeschwulste の卒業論文で医師資格を得、一年間ベルリン大学ランゲンベックにつくが、一八七五年に郷里ワイハイムに近いフライブルグ大学の外科ツェルニー教授(一八七一—七七年在任)について外科を学び、ツェルニー、カイゼルと共に

犬の胃全摘手術に成功する。ジモンの死去にともないその後任としてツェルニーはハイデルベルグ大学外科教授として転任する。ツェルニーはウインのビルロート(C.A. T. Billroth 1829-1894)の門下であり、ツェルニー、スクリバの犬の胃全摘が一八八一年のビルロートの胃癌全摘手術に大きな示唆を与えている。スクリバはビルロートの孫弟子にもあたる。ツェルニーの後任としてマアス(Hermann Maaß 1842-1886)がブレスラウ大学から来任する。スクリバはマアスの指導で研究し、教授資格取得論文として脂肪栓塞論(Untersuchungen über die Fettembolie, Deutsch. Z.f. Chirurgie Bd. 12, 118-220, 1880)を完成した。その他マアス法として知られる脊椎結核治療の報告などを行っている。ライプチヒ大学のチイルシュとスクリバは関係なくフィシャー、キリアンの説は誤りである。石橋、小川、クラアスの誤りも指摘した。

(新潟市)